

平成27年4月25日

県内小学生バレーボール関係各位

岐阜県小学生バレーボール連盟
審判委員長 大森 祥生

2015年度ルールの改正点・修正点

平素より、小学生バレーボール連盟の事業に御理解、御協力を賜り、心より御礼申し上げます。
さて、平成27年度ルールの主な改正点・修正点に関して、下記のとおり取り扱うこととします。
なお「ネット下の相手コートへの侵入」に関しては、一般の6人制競技規則と区別して「小学生フリーポジション制競技規則 第6条」に記載されておりますが、適用方法は平成26年度に伝達した取扱いに変更ありませんので、ここでの解説は割愛します。

記

I 「ネットへの接触」の取扱について

(ルールブック2015年度版より抜粋)

11. 3 ネットへの接触

11. 3. 1 ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則である。ボールをプレーする動作の中には、(主に) 踏み切りからヒット(またはプレーの試み) 着地までが含まれる。(規則11. 4. 4)

11. 3. 2 相手チームのプレーを妨害しない限り、選手は支柱、ロープ、またはアンテナの外側にあるネットや他の物体に触れてもよい。

11. 3. 3 ボールがネットにかかり、その反動でネットが選手に触れても、反則ではない。

[解説]

- 1 「ボールをプレーする動作中」とは、ボールが近くにある選手の場合「プレーのための動作の開始からプレーをした(しようとした)動作の終了まで」を一連の動きとする。
- 2 速攻や時間差攻撃など、どこにトスが上がるか判断できないタイミングで起きるネットへの接触は反則とするが、明らかに離れた位置にトスが上がった場合の接触は反則ではない。
- 3 アタックやブロックの動作が完全に終了した後、ボールが近くにない場合の振り向き時の接触は反則ではない。
- 4 プレーの終了後にネットにぶら下がったり、寄りかかったりする動作は反則である。
- 5 アンテナ外側のネット(黒い網目部分)への接触は反則ではないが、この部分にぶら下がったり、寄りかかったりする(支持を得ている)動作は反則となる。

II 副審のハンドシグナルに関する事項

- 1 主審が反則をホイッスルした場合、副審はハンドシグナルを追従しない。
- 2 副審が反則をホイッスルした場合、反則の種類、反則した選手の順に、反則したハンドシグナルを示し、主審が「サービスを行うチーム」を示した後に、ハンドシグナルを追従する。

以上